都名所圖會

右白虎再刻

都名所圖會卷之四目錄

右白虎

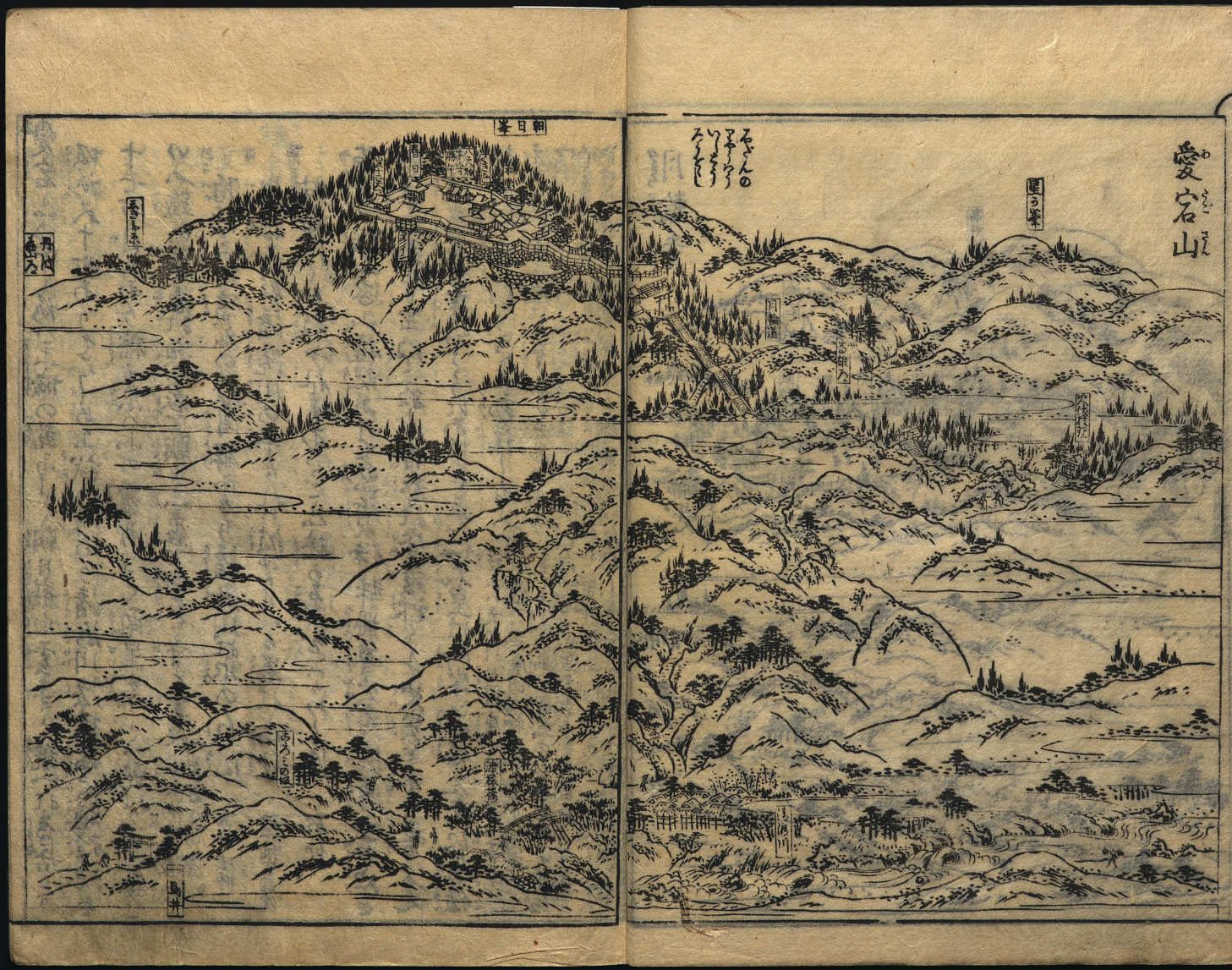
月輪寺　時雨桜　高野瀧　日暮瀧
朝日峯　白雲寺　擂鉢の原　火伏権現
清瀧川　濳城化野　念佛寺　往生院
三宝寺　歌石　小倉山　二尊院　法金剛院
時雨亭　厭離菴　定家の古跡　為家の墳
愛宕山曲龍圖　長明神　西行古跡　車僧塚
清涼寺　濳城帝塔　融大臣塔　大覺寺
大澤池　菊鳴石　相澤池　廣澤池
僧正遍昭古跡　名古曽瀧　千代古道　歌詰桜
野々宮　遍昭寺山　苅川　嵐山
蘆馬場　常寂寺　天龍寺
龜山

大悲閣　大井川　汐月橋　千鳥淵
こぶせの清　小督塚　臥川寺　有栖川
法輪寺　西行橋　橋のうら松　車折社
帷子辻　安堵橋　常盤社　右泰廣寺
牛祭圖　本満社　地藏堂　海生寺
梅の宮　梅津川　西院春日社　松尾社
葬うりの号　月讀社　葬巌寺　衣手社
葉室西芳寺　地藏院　唐櫃越　住吉
天敵森　上野橋　桂川　桂の里
久遠寺　大江坂　時鳥聞号　此地藏
太秦野春日　花の寺　臨清水　日野嶽
西行橋　せごいの水　翁の瀧　長岡都
栢社　西岩倉　三鈷寺　嶽

善峯寺　小倉山十輪寺　在原業平塔　埋蔵古跡　姫池
業平母公塔　朱雀権現堂　源為義塚　水藥師
雛天社　西寺古跡　山伏塚　松尾祭礼号
唐橋　吉祥院天満宮　鳥羽里　實相寺
貞徳翁墳　地藏堂　ごい塚　下名和無塚寺
法傳寺　挟大路　牛車圖　久世里　藏王寺
琴弾橋　鷺尾寺　福田寺　板井清水
羽束師森　向日明神　真経寺　寺戸願徳寺
乙訓寺　栗生光明寺　與海印寺　寂照院
楊谷観音堂　長岡天満宮　小倉明神　園明寺
帰海印寺　山崎　離宮八幡宮　宝寺
観音寺　八大天王　妙喜菴　天満宮社
宗鑑古跡　関戸明神　谷観音堂

月輪寺




愛宕山

愛宕山のやゝ坂八王城の乾の方に朝日嶽白雲寺と號一ヶ寺有ります坂路又十町ありてこゝに小ふ試の峠あり清滝川渓流此峠より八幡社を見下す十七町目あり松の茶屋小の藁葺あり南星峯と云乾の方にこの嶺ゝ一ツ大鐵の幕表れ額の表に朝日山寺と白字を書記す法紀二王の筆なり

陰たゝ〳〵る秋のみ雷解ゆく清滝川の水の白波　西行法師

岩根ふむ清滝川の早くれいはやりくる岩れ山吹　権中納言匡房卿

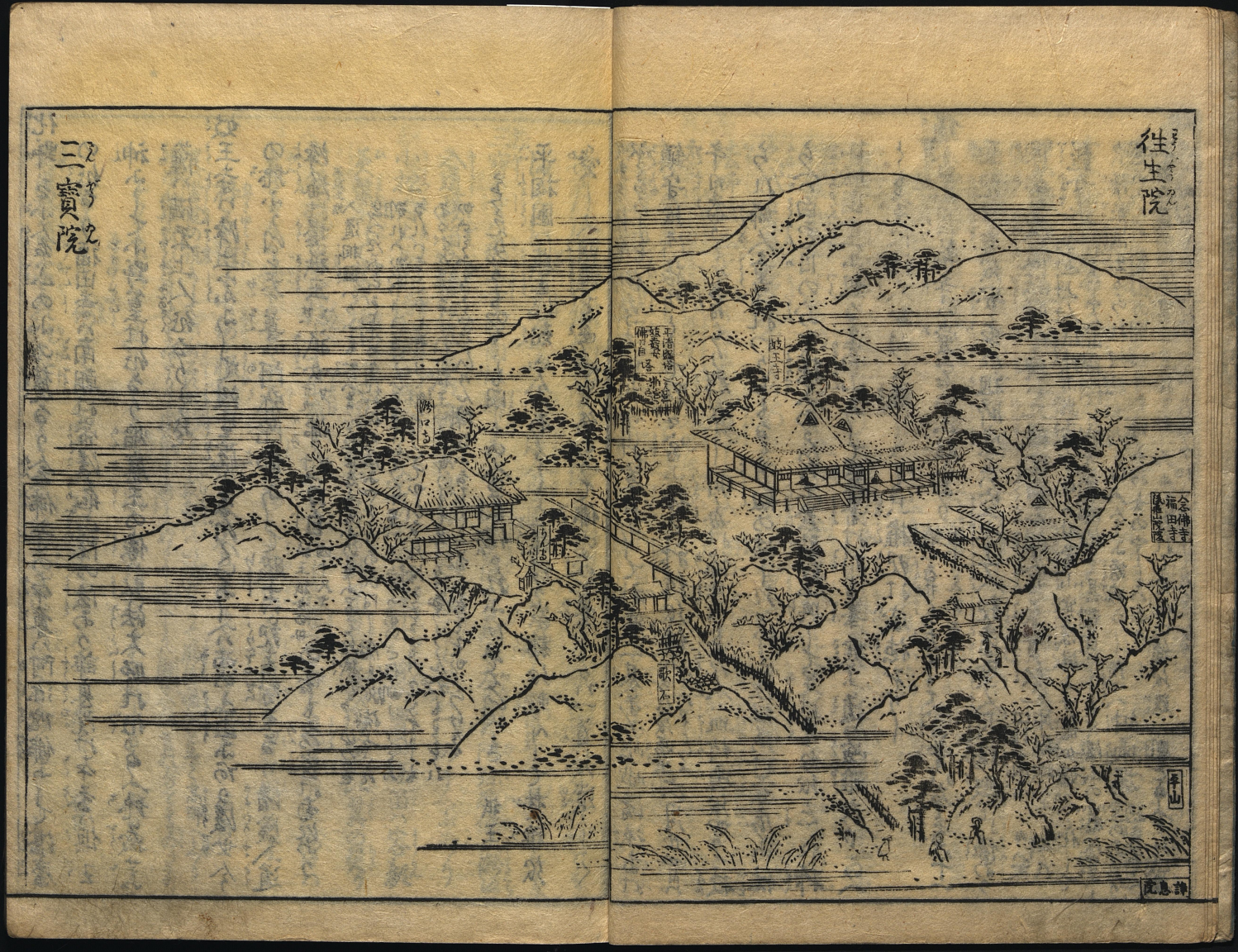
時雨ふる日数ふれもあらぐ山松の茶屋も入りく淋　於仲

本殿八阿たゝ山権現ありて祭所八伊弉册尊也霊尊二座なり将軍地蔵を安置あり帝都より護神として安安と永く遠のうえ久代を鷹の峯れやうにありと光仁天皇の御宇天應元年辛酉に慶俊法師と云ふ人勅諚にて

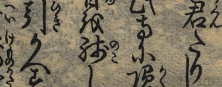
（役小角天狗と現ず日羅唐土の聖界日本に渡り此山に住す）

（愛宕山ハ天狗の大将太郎坊と云ふ）

此山に鬼八郎と云ふ悪鬼住居せしが元年辛酉


往生院
三寶院
波王寺
勝口寺
金佛寺
福田寺
慶山院
無歌石
平山
靜息亭

化野を小倉山の小の麓より念佛寺の本尊は阿弥陀佛なり
の北より福田寺は南朝より帝渡給ふ院の陵あり詳裏院より本尊は倶生
神なり小野篁作なり焔魔王の像は弘法大師作なり又地蔵菩
薩は満米上人作なりとぞ
祇王寺は浄土宗なりて往生院とぞいへり西の山上なり後世今
の地ふりを本尊は阿弥陀佛なりて脱士は紀る野至なり清盛入道
浄海は塔祇王は祇女は佛は十七刀自 祇王祇女の母 の塔も有なり


祇王
平相國は故主に紀るいおくと籠住る家籍狼藉して埜雑妓
愛しく朝權を専ふる故まりて佛のおを拳しは一首狂遺しく

祇王

おくに住る綾の錦れ粧をまく紅織まる衣ふりそう佛も我身のうへの秋をも
知てぞ住小松をそ四へくも道俗堅固小まるり尚しく目出度義女なりけり
三寶寺は祇王寺の南に隣るそも生往院とぞいへり本尊は阿弥陀佛又滝口
入道横笛の墓は安座に閑墓は良鎮上人と歌石とぞいへり門のまへあり
小松内大臣の侍士滝口時頼ふものあり建礼門院の曹司横笛は容顔
美麗にて糟は拍子は君ふしの滝口まひをかなひ異の契りと結ぶ滝口世紀して出家しいまふ住れしの横笛是まて尋ありし滝口
遂ぐるり詮ぐるくけふ一首狂詠大井川ふる水の流ふ事を況先行
梓弓引てそ何の恨もまし引ても引ても君ぞ 横笛
異説當院の説ありて此石に影有て平家物語を歩く高野へ上り
清浄往院小ありまてまでふ横笛もふるりけりへの滝口入道一首狂詠のまでふ
そうそうぐいうみふりも梓弓引てそれしき 滝口
梓弓引てそ何のうらみぞむさまろうろうれを 横笛
異説横笛の墓石に彫るふおろう異説横笛もふるりけりへの滝口入道一首狂詠のまでふ


二尊院
古今
夕月夜
小倉の
峯の
秋の
貢之
小倉山
時雨亭
清涼之間
いろり
藤壺
木堂
方丈
三帝高陸
東大滝
庫裏
九門内
車修理

小倉山二尊院は愛宕山南にあり宗旨は天台真言律禅土四宗兼学なり

風雅　小倉山嶺の紅葉の散れ入相の鐘の音ぞ聞ゆる　後成

續後撰　小倉山ふもとを住む里の名者に宿をそ乞ふ時雨せよ　順徳院

新千載　久ざれい旁立るれー小倉山やまれし法の声を聴る　須磨左衛門尉

小倉山あり本堂の額二尊教院は後宇多院の宸翰なり

當院は本尊の釋迦阿弥陀の二尊を立像にして發遣来迎の相をあらはせり今佛堂は法然上人の影を安置す中門の額は後柏原院の宸翰なり



せしは姿ことうる足偏ふ上人ゝ奇特みの繪師ゝ名譽うりそへて奇異のゝゝ名ゝふる足より足引の御ゝ彩ゝ筆ゝ拂ゝる法然上人ゝ第二世正信房湛空を徳大寺實ゝ孤ゝ孫ゝ實揩ゝ真法孤ゝ志源うゝゝゝ淨土門ゝ入ゝて當院ゝ再興ゝ土佛ゝ院後嵯峨院二代の國師ゝうる實喜上皇佛歸依ゝ勅命ゝ國々佛遺骨ゝ當山ゝ佛堂ふゝ納め奉る當山西の山上ゝ三世正覺上人ゝ後源卿院ゝ菴ゝ當山ゝ院後宇多院伏見院ゝ國師ゝうる當院ゝ論記ゝ伏見宮貞敦親王西二條公條卿ゝ兩筆ゝ外題ゝ後京良院ゝ震翰ゝて画ゝ土佐光信うる大聖文殊ゝ三衣傳教大師ゝ五條袈裟ゝ弘法大師ゝ三衣皇慶阿闍梨ゝ袈裟ありゝゝて當院ゝ什寶うり

黄門定家卿ゝ山荘うゝ旧地ゝ佛殿ゝうゝろゝ山脇ふありゝゝ卿うゝ以ゝ當院諸堂靏そうり後世小倉山ふ葬りそ号るゝ

定家卿ゝ山荘



檀林寺ともいふ　檀林皇后は草創ありて檀林寺と称ふ　墻の義野
開基

亡慶して山北に浄金剛院を建つ　今は二尊院と
唱ふ

浄金剛院のひがし　英勝調ふりとなり

長明祠　祠は二尊院大門のまへの道ばたにあり

よりて作ると又日嘗宮は北南二町ばかりありし皇后の継嗣をあらそひ
裏ばれ社は大門の西の中院町にありしと云ひ散りし所ありしと檀林
皇后嘉智子は橘氏なれば寵愛ありしと西施毛嬙ふも劣ぬ美人と
竟に幽窓慕愛執のふかき故離散させんとする遺命ありし落
城野と云ふ捨る真葛原の所ぞ建てふなるべし

西行法師

西行法師の居れ初し長のやどりもありけり

我ことの世の捨家ありと小倉山里に庵せしより　西行法師

東僧の塚は二尊院のまへ数の中に一堆の所ありむかしの石碑捨て

京極黄門定家卿の山荘ありしい時雨亭と號る處ありその郷の海おかうみいかき周ふるめぐりそ後今もかはらず

いにしへのふるき世ながらせば神代ながらの名ぞあらん　定家

時雨亭と種々して謡曲を作したる山荘ならん清涼寺西門より二尊院までの道二町ばかりは民家の軒を中院町といふ愛宕へ詣る人所のふもとなり山半を小入る細道あり竹林おのづからにありて東山の麓ちかく厭離庵といふ門の内ふ柳れ水といふ清泉あり草庵の西にあるべき所なり西南の高くして中頃かそ愛宕大岩院の領みて庵室をつくりしが今は破壊してほろびたり

禅僧るとあり　黄門山荘ありそよる

小倉山ふもとのされ初るくきのふもすゑもおもふ　定家

家苞のふもとの里小家なしておさへも袖もぬれぬへれば

嵯峨にいにしへふかくかくれ松は駒てへしと

明月記　此書は黄門の自筆なり庭訓小曰本願元久住吉歌合の時俊頼の歌を盤渉調と定めたり又盤渉調の歌を双調に作りたる事ありまた盤渉調は明月記にはじめてみえたり

彼記小曰　文暦二年五月廿七日乙未朝天晴　自不知書事始終中院源子色紙歌故予可書由彼入道懇切雖極見苦事憖染筆送之古来人歌名一首自上天智天皇以来乃家隆雅経卿

小倉山百人一首ふるい定家卿の仕立て只今おゐ仙百人をそろへ定家卿の仕立ふるわざを一人ふ一首づゝ撰出すの一説ふい新古今撰集の歌黄門の仕立ふれ故ふ百首ともに撰とるゑふ一説ふ唐の勝ふ京の西陽櫓ふ詩歌できそろゑふ道雅二位の八重ふれ別荘にお合のれ　ふるいろのいろ仙百首世ふ伝ふる宗祇法師ふ旨法華経ふ真髄ふ円珠庵ふ申ふ色紙ふい他者のふさへ珍ふくわの百人一首に異人の後撰ふ入ふ

鳥家　鳥家卿の墓ふ厭離庵の前畠ふ中にあり山ゆふ中院大納言ふ御墓ふ

小倉山陰ふれ庵ふ　鳥家

定家卿身まうりて後ふ年の佛事ふの家うそ伝ふ

くつもそもうれある君ふそふるしぐれ　入道前参議

下冷泉宗家卿ふりあるーを立ふ石碑をもふく

中院入道殿融覚建治元年四月廿九日薨ふそ記ふれふり

定家卿為家卿御父子の旧邸山荘ふ決ふり見ふ為證ふべし


清涼寺
本堂
五大堂
観音

五臺山清涼寺ハ小舍山ノ東ニアリ（寂滅殿ト號ス）

本尊ハ大聖釋迦牟尼佛ノ古像ニテ長六尺八分三厘眉間白毫ヲ以テ瑠璃ヲ嵌ル脇士十大弟子ノ古像並ニ厨子ニ安ス東西ニ壇上ニハ文殊普賢ノ二菩薩ヲ安ス

抑此尊容ハ三國ト西夏ノ霊佛ニシテ釋尊在世ニ刻ミ奉リシ像ナリ其後如来ノ滅後毎摩耶夫人釋尊ヲ託生シ奉リシテ後七日ニ覺シ給ヒ切利天ニ昇リ給ヒ釋尊成道シ給ヒテ祇園精舎ニ帰リ給フ迄ノ三ヶ月ノ間ノ此時四衆ノ宰相釋尊ヲ慕ヒ奉ルヲ以テ優填王ニ乞ヒ給ヒシ牛頭栴檀ヲ以テ釋尊ノ御姿ヲ刻ミ奉リシ尊像ナリ目連尊者ハ神通ヲ以テ佛ノ御姿ヲ梅檀ヲ以テ刻ミ奉リシ尊像ヲ速ニ感得シテ祇園精舎ニ安置セリ釈尊ハ霊山ニ在テ本像ヲ刻ミ給ヒシ事ヲ知リ給ヒテ本土ニ帰リ給フ其時本像ヲ水精ノ御階ヲ以テ迎ヘ

大澤の池 大覺寺

後拾遺
一かと
そひし
菊なる
大沢の
池の底
ふしも
なに
のうえぞん

友則

大澤の池 大覺寺



大澤の池 潜龍寺の艮にあり菊が滝といふ池の中流れ入れやうありけり 庭湖石あり 一名巨勢の金岡が建しうり

大澤の池もるつゆとやいろづくらん秋の夜の月 佐成

大沢れ池のみぎはのみくれの槻ばくるり五月雨の頃 重之

五所の明神の社 大沢の西にあり 古き池の真ん中にあり 取好き家 真にをうり

後拾遺 澄む月のかげもくもりもしと名ごそ流れて花吹へくれ 大納言

小澤といふ桜 雙樹あり 今うゑ人家

大覺寺 宮の真言宗にて佛殿 五大尊 弘法大師 作 御本尊 弘法大師 作 御本尊 淳和帝第二皇子 代々法親王 御住職 なり 宮 造営して 仁明 墓 恒寂法師 皇子 なり

大堰川 渡月橋 嵐山 大堰川 渡月橋 嵐山 曽我 大堰川 渡月橋 嵐山 曽我 大堰川 渡月橋 嵐山 曽我


廣澤池
遍照寺旧跡
遍照寺山
音羽山
八角堂
千代吉道
足洗池
千歳の井
さし石
鈎風橋
児社
月見茶屋
名月や池一つ
座禅石
紀之庵
名月や池一つ
名月や池一つ
名月や池一つ

鏡澤池 大澤池 鏡朝僧正此池をほりあけしとぞ

武雅 鏡澤れ池の堤の柳 なびきもやらぬ春風ぞふく 名家

猶後の鏡沢ふるりくゆそつるりくる

後拾遺 ふるの塔ふ陰をうつして秋の月 其水籠永

新千 いくへの人の汗ふ耕らんてほのぐ池る鏡澤乃池 保元位政政

中秋の月ごろと都下の貴紳池の汗ふ陰んでそのそぐ盃をめぐらし

千里故共みてくまもれ空れるふ月も宿る鏡澤れ池と詠し

も今さらにあらく風い纖雲ふ掃る澤く宿い月ふ

降つる寒し 謝莊い夜紙を修る庾亮も扇ふ心る和漢中秋の

良辰賞ぞろる古今ふ変ら沢

遍照寺山を池の乾ふ向てろそりへ寛朝僧正れそりへ

真言奥修れ池遍照寺の旧乳いふれ禁ふあり本尊八十一面観世音

赤不動共ふ弘法大師の作ご今れの表材の坐禅石 遍照寺ふ伝ふ

草庵ふ安ふた あり當一朝の坐禅し

のぼ登天松 寛朝ふ松の植りり天ふ登りしとり

佐古曽の水 池の西ろの

所心登天松 佐古曽の水 池の西ろの

して声観音池 池の乾ふあり つ遍照寺り心のやしろ

寛朝僧正の常ふ衛ふて 心寺あり寛朝登天の後 唄ケ石 坐禅石の

鉢殿橋 池のおりの 大道法師 足形池 鏡沢の 屏風岩 鏡沢

鉢殿橋 池のおりの 大道法師 足形池 鏡沢の 屏風岩 鏡沢

ふのりふあり 青頸山 足形池のおりの千壺の井 南のふあり

千代の古道 鏡沢のおり三町ばりにあり

千代の古道 鏡沢のおり三町ばりにあり

永代の古道ふ石一通ふ細るり

永代の古道ふ石一通ふ細るり

帯心り池 鏡沢のおりふ池の汗ふりふの 佐古曽の水 池の西ろの

帯心り池 鏡沢のおりふ池の汗ふりふの 佐古曽の水 池の西ろの

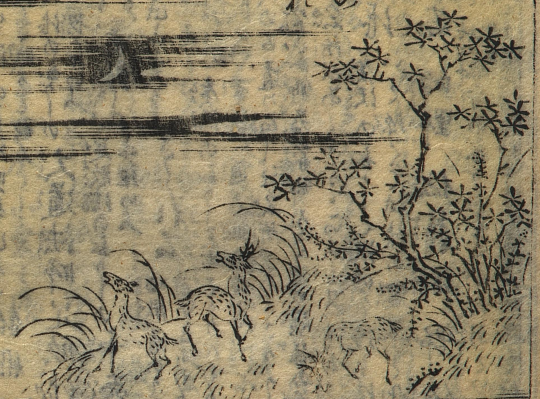
いく深くて池の靈蛇と化して人をとりしとぞ

志のぶの岩 的野 仁翁洞 野依 仁翁ふ

源草里 土急つふの住ろと真人の氏を源ぶしふとぞ

新古今

下おひ草
かりちる
ふの
タしぐれ
ぬれそや
ひとり
寐ん
ろん



條笨五老數相連
此鹿来從碧洞邊
石野麋人不見
一生長飲白雲泉

貢島



淀城野の大覺寺清涼寺をおろし小倉山こひ天龍寺法輪寺
迎祇下渡橋とうりく野く宮の眞中通りいつへり閑靜の地也
して故人も多くおんりく秀詠和歌おおりく遺す淀順慶山
地ふかんで紫藤の賦を作り嵯峨野の墓望く僧侶の家一つのみ祇祇
しい文粹ふの世々りおくい舊野山くも田猟の地おりく淀後帝始
て佛狩おりくくり文徳清和陽成の二帝いおくくりせのひ
しが光孝帝のこの興しのひ佛幸りぬおりいい山野へ支人
を遣さりく松虫鈴虫をくせのんに具くた野に出座ふ
造りおりた出ふ撰く奉くり淀城帝ハ亜相の本に秘書ひ
く日本二帝の第一うり又記文ふも連しのくりる文の秀藻
にんこうり佛位淀和帝に讓くせのひてあれる離宮り
かくれ嵐嶺の白櫻飛瀧よ落月小庵夢ふ殿発くんかり
世捨人も山野れ女帰花のうりくおふもくり馬とり前て

古今序

名ふめくおれるんりそ女帰花我前ふと今淀君

三乗

のりくんの草ふ露しものたれ社ふ野く四方の白雲　順徳院

長久二年八月松尾社ふ幸ふりふ社ふ宮の女房車
小草の花ふかさして淀縁ふくさう小ふりくく物え
結りふ淀迎湯のつくふめそれりふまりそ結りふ落乃
車のそやふうちよせそりみねり

後古

うちつりつくりなくれるいるふくえゆる秋く

新千　中納言資雅

絶せ行淀れさられくまくこの結ふの流なまくえ　飛山院

旧

うりりくふ山世のさられ秋の雲ふも時風もおふそくん　法皇生西

嵯峨十景

叡岳晴雪	難瀬飛瀑
愛宕雲樹	五墓晨鐘
嵐嶺白櫻	仙翁麥浪
雄藏紅楓	遍昭孤松
	幡山霊社
	亀緒落月

野々宮



野宮を小倉山の巽なる萩の中にあり悠紀主基の両宮ありて神服織ある黒木の鳥井小芝垣いつしへの遺風なり伊勢を神宮へ秋宮ふた世ゐん円親王此所ふさはしとせさうし侍ひて採桑老の秋吉のそらめいと垂仁天皇の御字皇女倭姫命ねり野の宮れ別れい例ふうりて九月上旬吉日以卜定して伊勢を神宮へ向ひ給ふ事三年潔斎の御宇に此まゐ給ひ秋風入夜琴こゑ

琴のねに答へ松風のうしろしづけきのとよろおろく初ん　秋宮女房

松風のきたれるこ琴の琴ゆゑけ子日のなりまそとれ　全

傳雪のあしたに来のやどほのかなくおれうけそふる雪れ白ゆふ　全　道前左兵衛

玉葉　きてぐらは八十氏の渡いろもそ法しぬ神のおろくひう郎　斎子内親王

常寂寺を野宮の西ふあり法花宗あしく囲基いは禰と人おろう

茶尊い釋迦多宝れ二佛之定家卿の社ハ南の山上ふあり　山荘のし

ハいる舎院ろ小督局ふ楊人車琴といふ名琴あり法代ふありて

金吾秀秋のふあしを当寺寄附せりおり



常寂光寺

芹川の野宮のあとを流れおいて大井河にそそぐ小川をいふ芹川
殿くらの御所あり亀山院御幸あり一所を所あるわかいねなく
竹田の芹川辺

歌詰橋の天龍寺のまへ芹川の流れにふかく橋をわたしたる所
也所々通りたるひしやくなる奇麗ふまでくわたされ給者歟
あり渡小西行をおはまりしより號るこを

薄馬場の天龍寺にあり東康王院のやうにあり（高氏薄殿ゟ之御代
亀山の天龍寺の西をいふ亀の甲に似るゆへ後嵯峨帝亀山帝
號る

離宮祇いくるみ住せ給旧跡
結亀山の仙洞ふりの山の橋杭あるこうしく

侍ふ花さくころそ

春おくるおそざくらかな　　芭蕉翁

かめのそれ滝つ波ちりそめ代の松の秋乃月　　大納言通成
新千

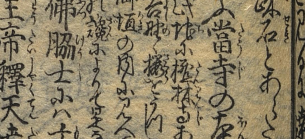
みはるるいづくいづくはれて亀のそれ岩亀の松となれそう　　高安

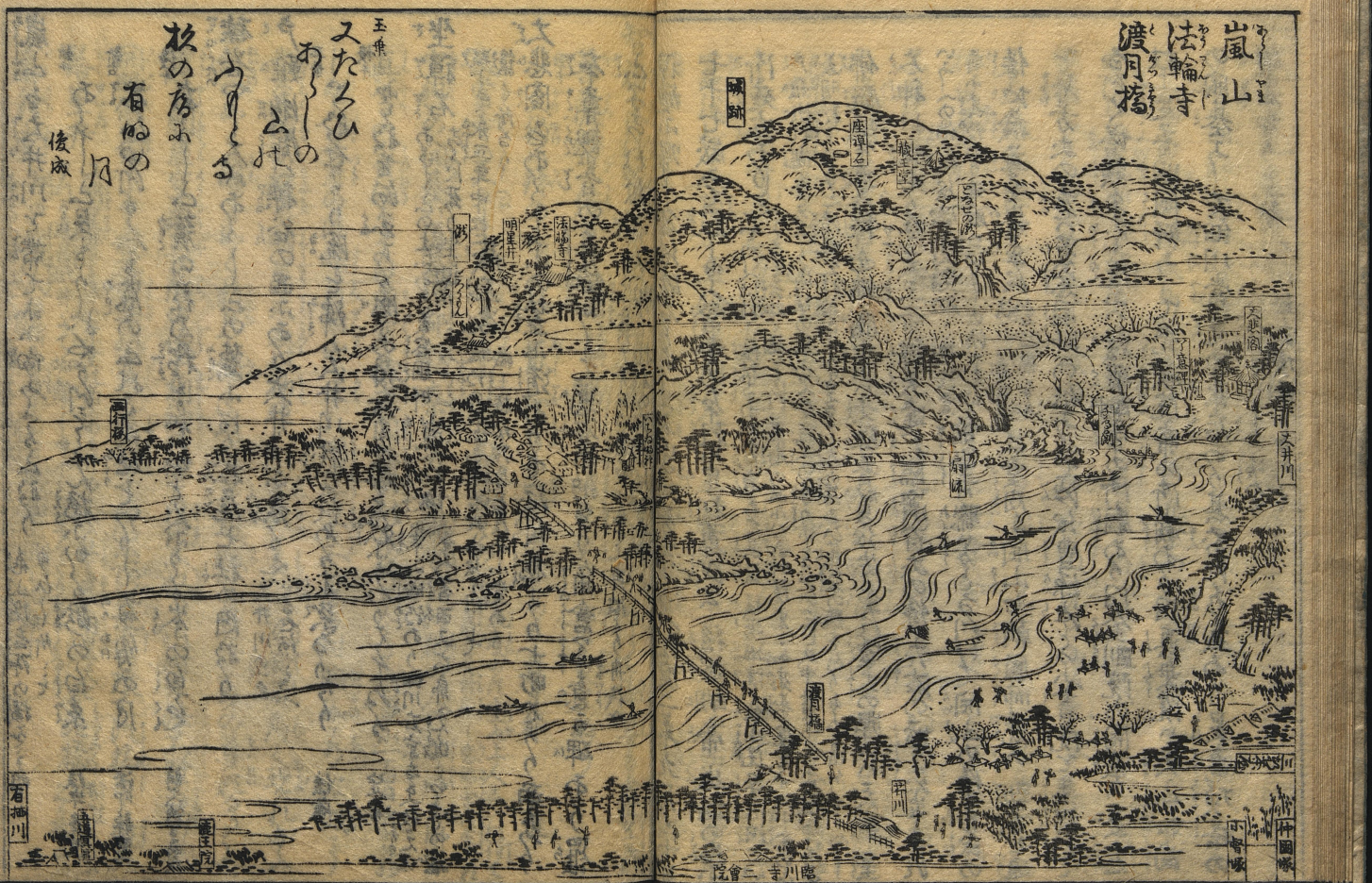


天龍寺



聖亀山天龍資聖禅寺の五山の第一なり大井川のほとりにあり開基を
夢窓國師諱は智曜又疎石と號しあるいは木納叟とも称す俗姓
の人なり姓は源氏みなもとにて宇多帝九世の孫なり母は紀氏にて
金刀比の光西なる者なり父なる者うしそうじ妊しん十二月みごもりて誕生せり
四歳にして母ははに別れ九歳の時平田教院にのぼりて出家し十歳ふ
たたびにして法華経を七日に誦じゅし母の恩に報ほうぜんがために九遍
相伝して独坐観想し十八にして玄観律師に謁えつし具戒を受けう
三年の間居室の教授をうけしかども大道の玄旨しげきを
て道場を建つること百日聖意を求めんがために期満の日ひにそ夜中暁ぎょうに
して夢の如くに一僧ありて夢窓に一寺ありこれを疎石
とうべしといえるあれば石頭という一人の長老あり夢
窓に告げむと思うて一袖に香を奉持してゆくと語りて後夢
窓ちょうに告げしかば大いに喜びて画工をして其の人の形容を写さしめ
禅観に帰依し名僧疎石とあらそう容貌夢窓という記庭二年九月二十日
七十七歳にて寂しずかの當寺の本私に足利尊氏公後醍醐帝追福のために
伽藍を立おこしいまだ成就せざるに後醍醐帝崩御ほうぎょあり荒廃あれすたれ
しかば尊氏公夢窓に謀りて殿舎を再興し後宮殿院寝殿等仏閣
戸扉悉く備わりて満願の日に及びて画工の筆かの中書王の御影
を写し清涼殿に安置して供養ありしかば其の後仏殿
仏殿に本尊は釈迦如来脇士は文殊普賢の像を安置し堂上の棟には天照皇
太神の銘あり梵天王帝釈天達磨臨済百丈の像を左右の壁上に安置
いうへの仏殿を宝殿と號し堂前に真如あり仏殿には宝殿と號し堂
像地蔵尊を安置し又堂内には開山七朝國師號の勅書七通
を納め方丈の庭には夢窓國師の位牌を置き法堂には釈迦
多宝院は後醍醐帝の御廟あり旧金剛院の開基は夢窓
仏上足普明國師にして光厳院帝の御廟あり旧真如院は天山和尚
の開基にて細川常光の菩提あり真如院には盆あり里亀頂峰と称す
礎石あり




嵐山
法輪寺
渡月橋
亀山
座頭谷
臨川寺
大井川
渡月橋
有栖川
玉乗
みたらしの
ふもと
ふりくる
松の葉ふ
有明の
月
俊成

嵐山を大井川を帯て水に向ひてる山ゐり　亀山院　吉野の桜をうゑし所
新千　おくれ山ものこりなくちりはてん桜ふかゝる滝の白糸　後宇多院
勅書　さくらゐる人も嵐の山ならぬ独をつゝし有明の月　法印静賢
後千　おくれ山麓の花の松ならぬ冬ふかゝる岩の白雪　前関白左大臣
藤谷やこゝろのおくれ山の麓ふかゝり松尾七社の内ゐり
戸難瀬瀧ハ藤谷の西ふかゝり大井川ふかゝるえ　大井川の一名
玉葉　とゞむとも流を汲ハ大井川絶ずしめる木葉なりけり　後成
後千　山ゐりをふかゝる滝の風ぬるそなをすゞしかりける　定家
坐禅石あり山の上ふかゝり参詣四ヶ所　嵐山城　峯ふかゝり細川右京亮政元の
家人香西又右衛門尉成之ゐり
縁起　して永正年中に藏王谷　藏王権現ふかゝり右脇ふかゝり
く所なり　藏王堂ふかゝり
大悲閣をあくれ山の麓ふかゝり道あくて渡月橋より七町ばかり西なり
本尊観音の立像ふかゝりて恵心の作なり角倉了意の碑あり羅
山子ふかゝり
智福山法輪寺ハ渡月橋の南ふかゝり真言宗ふかゝりて本尊ハ虚空蔵
菩薩ハ坐像なり　道昌法師　脇士ハ明星天両童子ふかゝり
縁手　文殊ハ清のそぐれも嵐山ぞふかゝりける　高道
来当寺ハ天平年中ハ建立ふかゝりて葛井寺ふかゝり　高道
中興の祖基ハ道昌僧都姓ハ秦氏ふかゝりて讃州香河郡の人ふかゝり弘法大師ふかゝり
真言の蜜法をうけ虚空蔵求聞持の法修せんとてハふかゝり一百日参籠
しぬハ五月の比皓月西山ふかゝり明星東天ふかゝり出る時剣伽ふかゝり
眼供養ハ是当寺ふかゝり本堂ふかゝり
光空頻ふかゝり耀て明星天子ふかゝれ袖のうへふかゝり
縫のぬく滝ふかゝりぬく数日を経しかども真体滅せざる生身の尊像なりとそ
道昌則虚空蔵菩薩の像を刻神の像を後閻ふかゝりる山祖弘法大師ふかゝりて
落星井　又明星井ともふかゝり本堂社南ふかゝり井のうへふかゝり社を建て明星天を
祭ふかゝり道昌此井水を垢離しぬれば星ぐるくるくるり
桑餘堂　那の工藏人此所ふかゝりて七日断食し滝ふかゝり垢離し
本尊ふかゝり智福を初り近年断食の者つゞくぐ



骸骨もうつ仮粧て
花見の那
鬼貫



今
見ぐさせば
柳桜を
こきまぜて
都ぞ春の
錦なりける
素性法師

大堰川より水上を小舟渡りて流れくだる水尾川清滝川小嵐谷など橋筏簡門瀧
大瀬等の名ありてあしら筏師一法月橋筏師を乗せ来る梅津の里
のこのかた筏流れくだる淀川小舟
延喜帝の御こと大井川小幸行の日
新古今 かきつめん小倉の山の紅葉葉心あらば今一度のみゆき待たん 坂上是則
拾遺 大井河川瀬の松風音こそあらしやみねの紅葉なりけり 貫之
百 色くの木葉をうかべて大井川をもみぢの紅葉ながれたり 忠岑
山河の流れは○小清らかにして多くの一度をも水の英河のかみしもの人
往来のかたくなるの遠近より騒人扁舟をうかべ棹さしめぐりおそれ岸をのぞき
岡小の名所ぐるめぬ水もなくそれ花卉をうえ清流に臨んで組さと垂る
あり水上小踊る若鮎の鉤を争ふく牽動をる楽の小石ころる所へ網を
巻て夜小入るまでも狩あるを凉をうる河風に暑を忘れ小増れ興小乗じて
月小歩し帰るも多し 綉丈粋小天下の勝地大堰川小過ぎるぞ
嵯峨中の名区へ嵯峨野ふもくいあるにとるん右大臣師房卿も宣ひしん
渡月橋は大井川小ありて法輪寺へ渡る橋なり一名を法輪寺橋法輪寺
橋ともいふ
風雅 大井河の香ぐはしきゆふの橋の上小ひと夜ねしきぬたの音
小督摺は大井河の小こと彩家屋の東数の中小あり小督局は摺町中納言
成範卿の女禁中一の名人なりしが琴の上手なり高倉院より寵愛妃
なりしが平相国清盛小怨まれ山深き嵯峨小隠れ弾正仲国勅を蒙りて
嵯の隠家小尋ねて明月小鞭をあげ西をさしてそおひゆくおもひおこし
山里と詠しんこと野く秋の夜のをいくばくぞとの問ぐるあるべしに
亀山のあなたちく松の一むらあるを仲国小琴の音聞へぬれば仲国
さそと嘘しく聞こえしを入て御あるじして御琴を給はりしを
帰りまゐりしに主上小召ゆつべの御琴小うつくしく平ありしと
千鳥淵は小督摺の西北町とうり小巌あり 淵の南の岸のりとう
横笛の滝は小着れて山所小有と流れ田盛表紀小つくり

西行櫟　法輪寺の南にあり西行法師此所にて櫟を植えたりと傳ふ今の櫟は後に植たるなるべし

霊亀山臨川寺　嵯峨にあり禅家十刹の第二なり

三會院　本尊の弥勒佛坐像　佛殿の額三會院　足利義滿公の筆

法皇を葬る　舊亀山法皇の仏舎利を遺詔にて建武二年十月後醍醐天皇

より爾来累葉國師の例を當寺の創

鹿王院　臨川寺の東にあり禅家にて十刹の佛殿なり釋迦佛

脇士は十六羅漢を安置す運慶の作　開基普明國師の像夢窓疎石像

右の壇上に安置せる當寺の本願将軍義滿公にて至徳二年の建

立なり　十寶の佛舎利あり　傳に曰錄名将軍宋朝より霊鷲山の霊蹟により大宋國阿育王

後光厳院帝の御宸翰普明國師に勅して禁裏にあり其後夢窓疎石

今當寺にあり　應永十一年十月十六日舎利會を修す

車折社　下嵯峨村にあり　五道冥官像　閻魔王の脇にあり

頼業の霊廟　此所を車折と云ふ事は清原頼業人

そのかみ忽牛倒れ車折れしより今の遠近の商家賣買の價の多少遠きを

もて此社に小石をとり祈り家に持ち歸りその増減を以て五道冥官

閻魔王宮の廳に出す　名多ければ紙金札焚礼をなして遠きを近く

有栖川　材木町にあり　小川あり　千載

千早振　在原業平

いろその昔有栖川松ならぬ　齊宮　有栖川のあたり人家の北側にあり

帷子辻　材木町のほとりにあり上嵯峨下嵯峨右京常盤廣澤愛宕等の別れ路

帷子辻といふ　檜林皇后の髑髏さが野に捨しより此名あり

所

安堵橋　帷子辻の西にあり　清涼寺のかたはらに小川あり赤旃檀の香ひ靈山ま

是より右へ行ば　甲塚　安堵橋の北にあり　油掛地藏　甲の西にあり

常盤社　阿彌陀佛と安置　常盤墓　地藏堂の傍源光朝の墓あり

古御所　常盤の東にあり　藤木　杜の西にあり


方丈
拝殿
三社
太子堂
祖師堂


左泰
廣隆寺
太子堂
祖師堂
稲荷社
くらづくり

九月十二日
右秦牛祭

聖徳太子
こしめそ
執行し
たまふ
秦久い
弘法大師





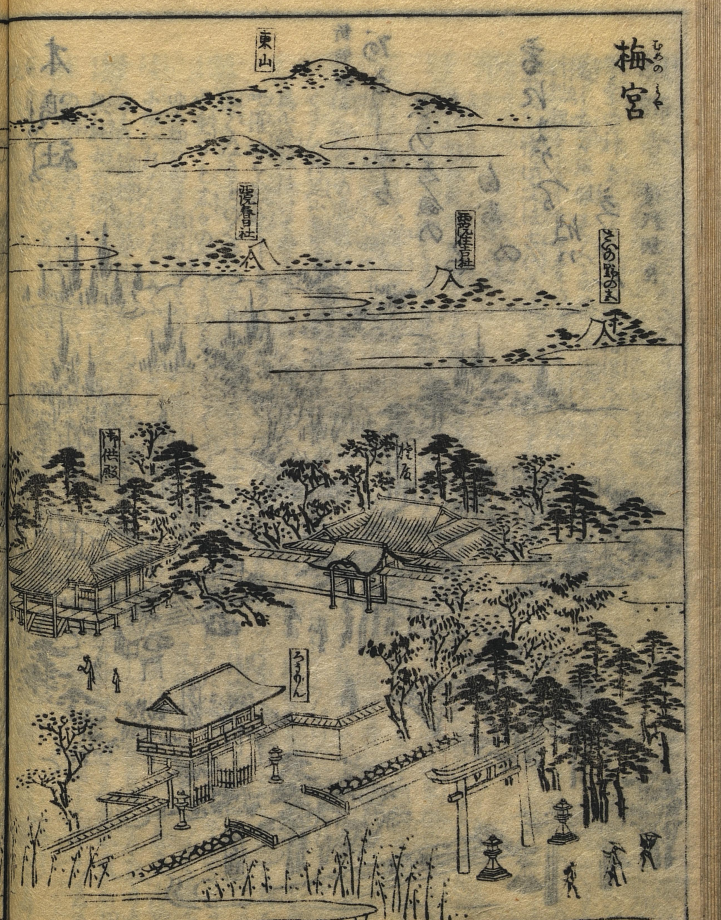
左秦廣隆寺ハ洛陽二條通の西うら（左秦ハ里の名にて秦氏の住し事小日山川勝の向日明神の社前の橋本あり）
（應神天皇の時宇豆彼人日本に歸化ありし後裔なり）
（故ニ當寺を秦寺と訓しく）
み帛綿をきくりそ人くの磨ゆるくめはりぬ（故ニ當寺を秦氏と訓しく）
ふるく當しくしゆしは地名なるくめいぬ秦氏則秦始皇の廟所建なりうをろ
訓なりうろ
（なるくうくを秦と當寺のくりかを推古天皇十二年八月小大和田斑鳩宮て
聖徳太子近江秦川勝を召て宣ふやうハ我ハ夜夢のごとく空より遥かの
一村あり楓林繁茂し清香常に薫し林中に大なる梢木あり無量の賢聖
諸經の要文を誦しあり天童妙花を供しゝ本より名花放微妙の聲
なりけり法花演今これ彼地にあらん川勝ハ則獲我めぐりて前駈ニ其日
葛野の大堰小綱へそれをうめに爰にめし楓林の中ゐ大圍の桂樹あり
異香薫し其樹の空虚ニ杳の瑞れ寶閣あり光明赫をゝしく蜂多くあり
賀茂發に隨身これ拂ども盡ニ凡人ハ蜂とうれもなきの賢聖とうを
なりめ人則假宮ニ蜂圍のとゞふ造て川勝ニ勅し百濟より佛像
（後ニ廣隆寺と改む廣隆ハ
川勝のなるこゝ故上傳記のごとし）
（此ニ摩小日山川勝の向日明神の社前の橋本あり）
（此ニ摩小日山川勝の向日明神の社前の橋本あり）
（此ニ摩小日山川勝の向日明神の社前の橋本あり

祖師堂　金堂の西南にあり中央に弘法大師の小影理源大師の南に道昌大伝正の像を安置す山の洞に如意輪観音を安置す九月十二日夜祭の神事あり當寺の僧侶及人民大尊の形木に異形の面をうけ風流の冠服を着し法刀弧矢を帯し本堂四人を前後左右に囲繞して行列を整へ本堂のまわりより祖師堂のまわりを練り廻りて本堂に還り又西のうえより祖師堂のまわりを練り廻りて後に文法古代の法を伝へ来るを奇みて弦に載せ

祭文




新撰拾遺
はるくと今
花咲梅の
宮ごとら
たそとも
万代の
さかりをも
みん
慶有
本社
若宮
護法社
末社三所之
ろうもん
ろうもん
天神門


梅宮
東山
愛宕社
愛宕社
さくらの馬の土
神供所
社屋
ろうもん



松尾社



木落社いも泰の忌ゝ森の中ふあり天照御魂神以多ゝ瓊々杵尊土已
貴命ハ左右ふ坐を鹽根社ハ本社の忌ゝふあり糸ゝこゝ猶以下八人ふ
社を列を西の傍ふ清泉あり　世の人元ゝしゝ八名ゝ委ゝ詳ゝ後中ふ三ツ組合の
當所社司石鳥居　御の入口ふあり　例祭ハ九月廿一日ニ　鹽根社事ハ二月十一日
の祝
みくしろゝ舟もゝよゝめ木の落ゐいそあまのおもあり〳〵ん　そくゝ
文保二年四月廿七日伊時遊仙窟を借往でそうる祝傍く数して山社ふ詣と松中ふ茅祝
結ゝ老翁あり常ふ仁ゝ公編伊時ゝ仁至て相傳ゝ峡谷漫畢れ後卿恩のうゑ琉
歸ゝ遠ゝふりて後う
是當社の應現ゝうゝを
海生寺　ゝてこゝへんゝう倚ゝふそゝ撒ゝゐおゝ倚何ゝもの人ゝうゝる祝ゝ後ふ
泰の南仟林の中ふあり今ゐ草蒼ゝて岡山源山源吟の像を安奉ゝ像ふ
祝ゝ車ふ乗ゝて四衢ゝ往来ゝ人世の人ゝ吟て車ゝゝ
又七百歳の年歴のゝ祝ゝ故ふゝ祝七百歳ゝゝ祝ゝう
梅宮ハ四条の西梅津里ふあゝ所四座ふゝて酒解神大若子小若子
酒解子神ゝ拝殿ふ楯贈左近番左　左良歴子　櫃社皇后嘉智子をゐゝ
ゐ皇后ハ後嵯天皇の愛妃ゝうゝゝゝゝゝ常ふ越て酒解神ゝ祈ゝゝ祝ふ感應あり
て姫宮ゝうゝ後ゝゝ則當社の造砂を床坐の下ふ敷ゝゝ祝後嵯ゝゝ仁明天皇文ゝう故ふ
世ふ稀ゝ臨ゝ當社の砂を取て帯揉ふ
梅津川　大井川の流ゝうふ所ふ舟橋ゝうゝ
長福寺　東梅津ゐゝう源ふ基ゝう
眺ゐ大宝輪ゝうゝハ花園院の所ゝうり
ゑゝ八梅津の川の花さゝうゝ松筏のゆけもゝう次　為家
春日社住吉社　西院村ふゝ所の氏神ゝ
八月廿八日興ゝ基ゝて春日住吉ゝ野宮
別當ふゐ社のゝゝろのふゝう當社の
松尾社ゐ梅津の西ふあり　明神の後嵯の祝て相模ゝ糸方後嵯方ゝゝ良西ふ遷ゝ
後裕　一条院の御ゝゝそゝ松尾ゐ幸ゐゝうゝゝゝ
ちゝゝう松の尾ふれ弦ゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
本社ゝ祭ゝ所二座ゝて大山咋神市杵嶋姫ゝう神社　大宝元年ふ秦都
理ゝ八人社祝建て分土ふゝう辻ゝる　鎮座記ふゐ天明帝ふ御二年四月十一日始て
祭の丹塗の矢化ゝて松尾の神ゝ祝ゝ則秦良勇　松尾七社　月讀社　荒谷社　一の宮
同ゝ正光　松尾の守護ゝうゝ今の社司の遠祖ゝう　當社ふ像社　三手社　八神社
當社ふ像ゐ御衣ゐ四月上酉日仁明帝ふ始ゝ祝ゝ七基西七條の御所ふ祝ゝ
四月八日松尾ふ後ゝゝ祝ゝ
時ゐゝゐゝゐ事ゝゝ
舎利殿　祝ゝ木の中ふ奇瑞ゝゝ
延朗の言祝信ゝ二層塔ゝ建ゝ



明智坊石像 松尾社の中一町ほどあり明智坊いふ人の構ふる所ゝ流と
傳ふ又ふもとを通りて山所ゝ殿閣

月讀社ハ松尾の南二町ばかりあり松尾七社の内なり 當社鎮座の
事ハ前ゝ松尾より 寛平御遺誡ニも松尾より
實錄ニ出ようゝ文徳帝仁壽三年小痘瘡大ニ流行して人民多く死す時
當社の神託ありその害を祓ひ人民ようゝ安堵ス故ニ貴社抱奏の
神のよし延喜式ニ代實錄ニあり

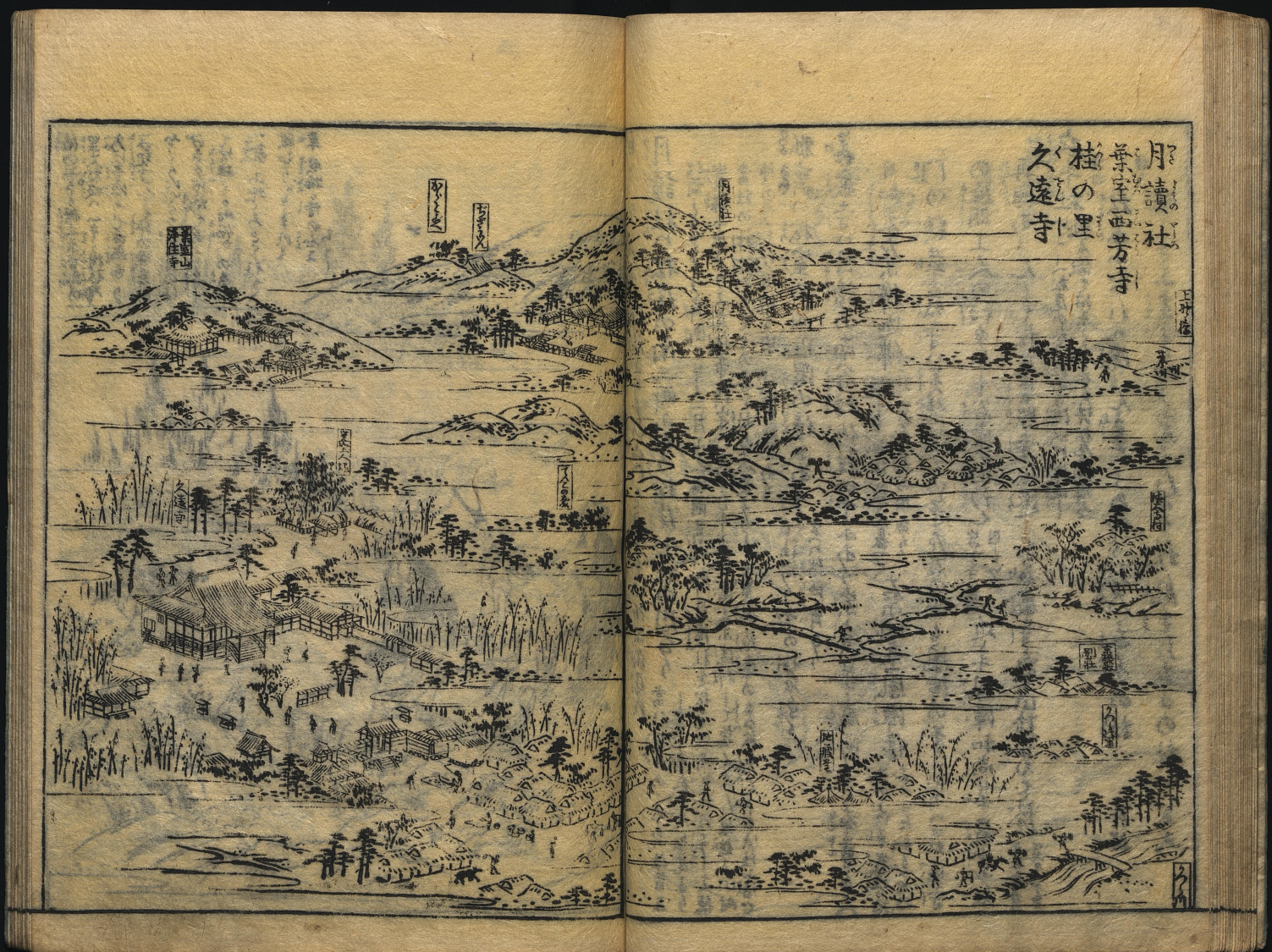
狐齋ハ松室の西往還の傍ニあり 社ハなく幸の社ハ
多ハ結地壽なり

巖寺ハ月讀の南谷村竹林の中ニあり宗旨ハ華嚴ニして本尊ハ
日如來左ニ釋迦佛頭ニ宝冠ヲ戴く長六尺右ニ毘慮遮那
佛ハ長三尺ばかり 左右ニ普賢文殊の相あり
門の額華嚴寺ハ弘法大師の筆なりと傳ふ左右の聯も風濤のまゝ
の延朗上人の御ゆゐしき谷堂の旧ありと寺家の
再興のゝんゝそ松尾安照寺ハ遷して巖寺ニ移ス

衣手杜 樹木繁茂して洞のようゝなる森なり松尾の社地ニ
秋毎ニたゝれの漂ゝとちるぬれ乃衣手の杜

涼しさハ立ちよる木ゝゝ深き乃秋風をたゝ衣手の杜

北浦
烏氏


月讀社
葉室西芳寺
椎の里
久遠寺

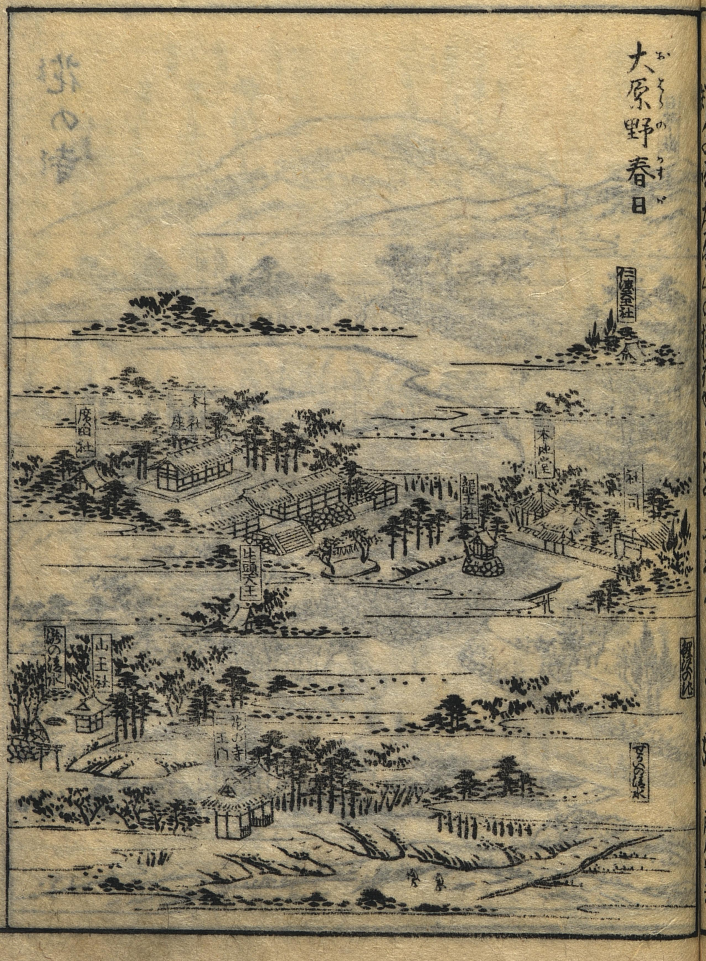


西芳寺の松尾の南黄室ふあり導宗ふして本尊阿弥陀佛ハ聖徳太子の作ゆう開基ハ聖武帝神宇天平年中ふ行基菩薩中興ハ夢窓國師と方丈の左ハ夢窓の仙く庭中の造化四時の風光玄妙ふして心も詞も及ばれ西来堂額を西芳精舎と書ハ瀧口の傍の黄風店ふ頂へやる道の側の縮遠亭ハ頂の黄金池ハ船の浮ふ所ふ小亭をらハ合同船と向上関方丈と指東菴ハ夢窓の居ふ所ふ指東くハ是真如親王ふ居の旧地ゆう國師ふ入ておわるを以て

かくせう道をハ松の為葉と我住庵ふ

夢窓

湘南亭 池中の亭ふハ潭北軒橋ふ繋月らハ潭北軒ハ佛殿の小西ふある庭ふ紫竹七株ふ貯清ハ小の小院を一峰一覧 貯清の南をハ北巌山ふ向ハ所ふ衍景向石 夢窓國師ふ命ふて観瀑亭ハ一宇ふ構ふてわれふゆう動ふて甚力を住ふる所ふ動ふて白雨ふ穿ふて自ゆう所ふ穿ふて甚ふ所ふ風ふ入ふて甚ふ所ふ風ふ入ふて甚ふ所ふ風ふ入



久遠寺の柱の西の方ふあり 此所を寺内と云 西に條右衛門尉殿屋敷あり 西山和尚と稱す

阿弥陀堂 本尊の安阿弥の御作 開基の覺如上人の像 當家の開山親鸞聖人の像 多く三代あり 延徳兼俊

の上人の像 観應二年正月十九日 覺如上人 塔堂ふり 今ちくの面 當寺のふ

八十二歳にて入寂 あり

木佛の面の如く 早の年里人ら祈雨を祈れば必ず其驗あり 一年 西六条本寺

の宝藏ふ 寺内震動して出ざる 此所ふ 今ふあり 當村ふ災わざる事

しかぞその山瑞ふ あるに故ふ名くる

大枝坂ふ 樫原の西一里ふあり 此の西壹町ばかりふ 城井戸圓塚の立石あり

ぼさび 婆ふ 酒呑童子首塚 首ふ埋ふ所ふあり 大江ふ鬼神ふ平げて 所民家多し 此の里より丹波ふ

市場あり

峠地藏 又福寺と號す 大枝坂峠ふあり むかし市盛ふ者 くさの一人の娘あり 親

ぼさび 婆ふ 酒呑童子首塚 首ふ埋ふ所ふあり 大江ふ鬼神ふ平げて 所民家多し 此の里より丹波ふ

市場あり

峠地藏 又福寺と號す 大枝坂峠ふあり むかし市盛ふ者 くさの一人の娘あり 親

ぼさび 婆ふ 酒呑童子首塚 首ふ埋ふ所ふあり 大江ふ鬼神ふ平げて 所民家多し 此の里より丹波ふ

市場あり

峠地藏 又福寺と號す 大枝坂峠ふあり むかし市盛ふ者 くさの一人の娘あり 親

ぼさび 婆ふ 酒呑童子首塚 首ふ埋ふ所ふあり 大江ふ鬼神ふ平げて 所民家多し 此の里より丹波ふ

市場あり

峠地藏 又福寺と號す 大枝坂峠ふあり むかし市盛ふ者 くさの一人の娘あり 親

裏土のくりくる 救ひめん 頼ふ僧都 つくの法門と説ゆへ 女ふうりる苦患

をまぬかれんと 我誓しるく 産婦の亡死を救ふべき地藏尊ふ 作りくまつり

家宝しのへ 云終りて 去ぬれば 人ふの女の塚ふ 此ふ 樒ふ 伐て

地藏尊ふ 作り一宇の堂を建て 安置せり 人ふの本尊ふ これり

唐櫃越 栗室の峠 地藏院の 丹波の王子村 山ふ 通

ふり 此ふ 大木の松ふ 樫ふあり 洛陽五条の西ふ 至る

大原野 樫原より 坤二十町ばかりふあり 民村多し

いつへより 山野里ふ 泉ふ 湧

花の寺



春日社 大原野林中ふあり
（今二條のさきの海ぐ東宮ゐやを所と定くる時
おほくの社をふねてそこまひくる日ふる
おりそふる小塩の山とくるその神代のこともおいらの
拾遺 大原社神主ふるうんいつの春いくく人代のおろ〳〵ぬん 一條拾政
後拾 柳原ゆきをしほのやまのやまきにあふ神代のするのこるん 光大臣
當社の神ハ武雷鳥命 齊主命 天津兒屋命 姫大神の四座ゐて
往昔仁明帝 嘉祥三年ゐ光大臣冬嗣公ふれ給ひ南都二星
ふのり勅請し平安城守護神と定めゐ（五條后順子始て清和帝の后宮
遠ふれいふ大原野ふれ后妃ゐ人のまふ給ふくゐんと御ふいニ月上の卯日仁壽
之年ふり始ふ南都新の祭ふ倣して往ありそふ祭ふいあんだ
係氏社参詣の人ふ大原野ふ西ふ向ひ川ふ門のこやそふく
ゐん事ふふ一つふ井ふれふいれ〳〵春人ふこのふ流ふれ 大江匡房
社の南ふあり 鯉魚池
中後拾 神社の 瀬和井 清水 池の儀ふ
あり
小塩山勝持寺ふ玄旨社西ふあり 花の木ハ大台ふて本ふるハ薬
師如来の化 傳教大師 本堂の額ハ小野道風の筆當寺ふゐ開基ハ役行者
ふて自作の不動明王を本尊ふ大原寺ふ號ふ不動尊今 仏蓋僧坊
四十九院魏ふやふて嚴重ふり年ふて破壊ふ及ひ佛陀上人再
建ふ 文徳天皇佛陀上人を呼帰役 岩窟ふて石不動ハ弘法大師の作ふり西行
法師像西行櫻 堂前の左右 西行菴室 ふあり 堂ハ二町ふりふあり當山の境内ふ福光
終日ふの作ふそふゐふ西行の 盛ふのハ那下の貴ふ物ふんふって
雫ふ髪ふ
冷泉沼 石清水の下 辨財天社 池のやふ 役行者窟 西のふと
ふあり ふあり
いふけさにうえゐて沼や水ふんふ塩のふふ香ハふりけく 光俊
毘沙門天 傳教大師の作ふ 地蔵尊 ハ役行者像 堂内ふ安置ふ
ふあり 白山社 當山の鎮守ふ
二王門 金剛力士を安置ふ 阿の像ハ 玄宥石 林の中ふあり むかし玄宥僧都
宝庫の作時の像ハ湛慶の作ふ 山地ふ住ゐんしふと
慈鎮和尚も山地ふ住ゐんしのひ出のふふ作ってあり
傳法堂 茶湯ふ宿ゐあふ ふもろふふ世ふ作ふ古社ふ
慈鎮

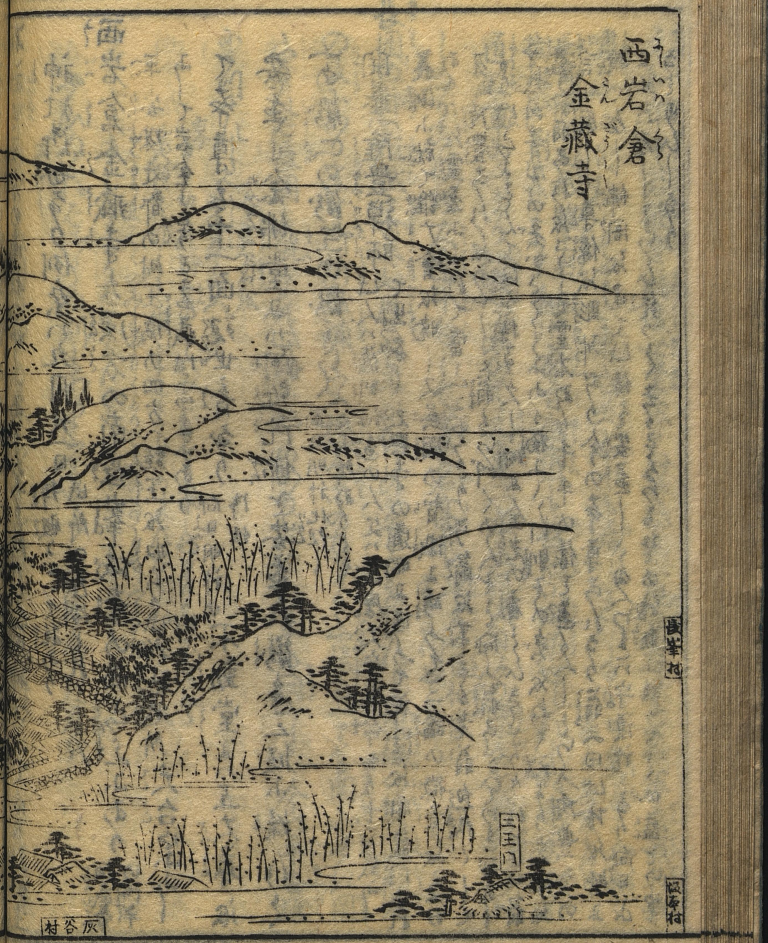
えい和年中若狭守勝俊世栄公さけて此ところに幽居せしとなん故に天哉翁長
明子と同称してよく東山ふもとに居しるより山人翁ともいふるよし
長明翁孤生機驢上岩細り玄旨幽斎と長岡に閑居せしは此連歌の宗
指肥迄等此ところより此まかりそえ亀二年二月又日ころ連なを興行せれ
しころ此坂大原千句とて世に名高し 連歌の懐紙を
長岡の都に桓武天皇延暦二年に遷りしより此所に風城の地上羽村
の民家あり宇治所在浦より擔本京の南より二条の小橋を南に少し行
ころに長岡と號るは此邑の名にぞ今は平安城
ふりさけ見れば 今のおもかげ
西の京らしく
古今 ありあけの月もいでぬみよしのの山のあなたに
哀はるかに行くかりがねもかすかなりけり
てらすみてこのみのころとみのそらにぞ
ほととぎすうちわたしてなくこゑ
おひぬれどいとゞ別もありよしをいよ〳〵みちの君哉

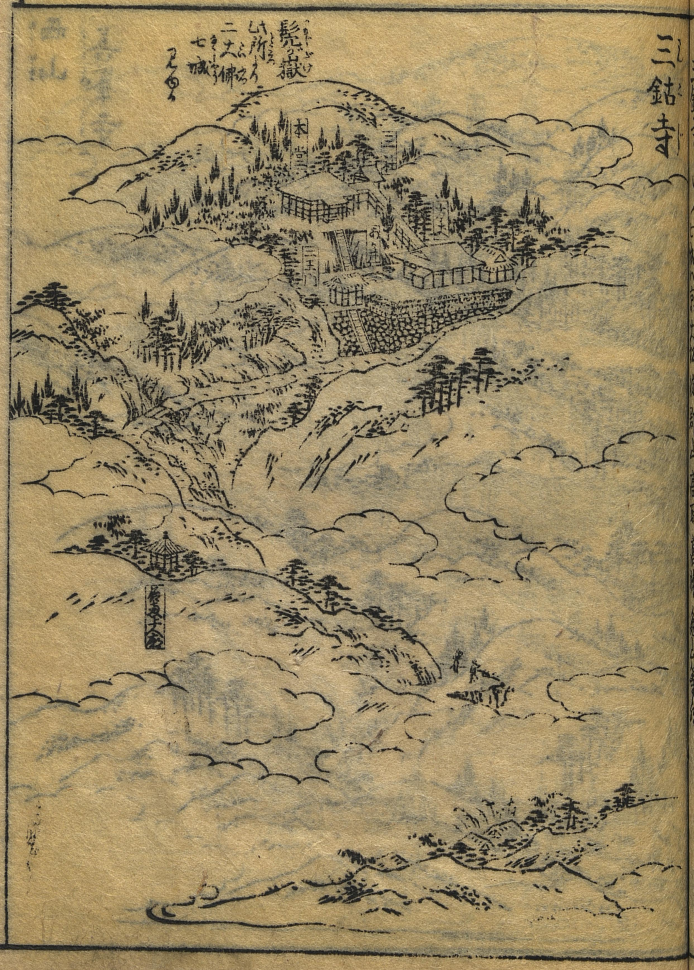
世俗ふるく此辺のものしるからのやまとのくにのよしれる
ありの〳〵の説也

桓社を此所の南松の中ふるき所に大歳神をいはひて向日社也土
神也御母うり例祭八月廿一日拝殿ありしが此所の産神
西岩倉金蔵寺より此方の南長峯坂本の西にふもとあり 桓武帝の
平安遷都の時土城の四方へ往王城を守らるゝ所にて此所大台宗の
て本尊は十一面観世音なり 向日明神の 不動堂 此傍
安置 一念佛堂 阿弥陀佛を安置 此所を三昧ともいふ
一の滝二の滝三の滝 向日明神社地
開基の隆豊禅師は人皇薩摩大守重命の十二歳の
義剛ふ就て雖ナ會坂暁一又吳國の智徹と頃ろ二論の微旨を
あるよし霊夢ふ感して當山を開基ありしとなん 翁も
豊ろ人なりしとて深く禅を尊ぶ 翁の
言ふ所一として尊像仏影那せり 翁の本尊なりと
投ぐなし 佛前なき 此ところ安置しるし
ま此ところ

西岩倉金藏寺







三鈷寺

西山ニ鈷寺ハ岩倉の南ニ谷アリ上ニアリ宗旨ハ律禅浄土四宗ヲ兼学ス本尊佛眼曼陀羅ヲ観世法指ノ尊ト日本無二ノ曼陀羅ト尤名ノ壇上ニハ釋迦弥陀ノ二佛脇士ニ恵心僧都ノ作ト堂内ニハ智者大師像善導大師像善恵上人像宇津宮蓮生法師像等ヲ安置ス金色不動ヲ智證大師ノ作ト方ニハ空海ノ阿弥陀ヲ安置ス拘止阿弥陀如来ハ恵心ノ作ト宇津宮頼綱入道蓮生法師生前ノ持仏ト拝セシヲ云フ阿弥陀佛ト拝セシヲ云フ本尊ヲ向ヒテ念佛スレハ本尊ヲ拝スルニ感信ソノ縁ヲ結ヒテ即往生ヲ遂ルノ利益アリ菩薩ノ悲願ヲ拝シ感信ソノ縁ヲ結ヒテ即往生ヲ遂ルノ利益アリ不ふ思議ノ霊験アリ

抑ソモソモ永仁三年八月十五夜ノ縁起ハ西三條殿遊覧ノ折ニ

當寺ノ開基ハ添翁上人ノ観世法指ノ為ニ結和尚ヲ以テ始ト中興ハ善恵上人ノ善恵廟塔ノ町ニアリ碑ノ銘アリ

當山ハ絶頂ニ髪嶽ト名ク二峰アリ其形二鈷ノ如シ


西山
吾山峯寺
開山堂
三玉門



續後拾遺
雪てゝ
秋の
名殘を
小坂山
麻と
こゝろひや
ゆるくん
らん

中臣師宗

小坂山十輪寺

西山善峰寺の小坂のふもとにあり天台宗にて本尊千手觀音
此本尊は神木榎木にて行圓法師夢瑞と云ふ弘仁法師と相談して千手佛像を
作らしむ是洛陽革堂の本尊なり其後三人の像と作り當寺本尊是なり
阿彌陀堂の本尊は慈覺大師の作二重塔婆は大日如來安置
開基は源算上人攝國刕の人にして孤獨なるを憐み拾ひて養育し比叡
壇重受戒功を積徳僧都の資となり名山を歴遊し後所の人
七日夜堂前を勤行しつゝ老翁忽ち來りて曰く我は山王の使なり
佛場を建よと一源院を作り宇長久二年の秋仏菩薩現れ給ふ
天聽に達し一源河うりはふ和正猪落ちて檢斷を平めん化して去
白山水當山權現出現し五彩の雲たなびく仙翁石源算上人
祝念の折ふし阿智坂社當山十輪の守護神なり
坐禪石くらい
尊圓法親王等の墳當山の小あり

小坂山十輪寺の名峰と森小倉里にあり天台宗にて高雄に屬す
本尊は紀世音菩薩（弘法大師の作）
五原紫平塔當山西の山にあり
潮汲池當寺より一町半ほどあり潮を汲せし所也

脇本北藏 緑殿皇后安産平安の
頃作とて紫平塔の
ごとし



業平の母の住所は長岡にありと伝ふ勢多伽ふうん伝りくの真所へ小塩のやくらの上柏とつの翼うりくろゆくくるくへ尾たが袖萩のやまをめくりそし所いふまりうむしと威ト糠蕎の和名をようくくそをめもおほうりん





水藥師



朱雀權現堂

烏義塚



權現堂ハ七条千本通ふあり本尊ハ勝軍地藏ゐして聖徳太子ノ御作
（愛宕権現の本地佛ゑう）脇壇ゐハ聖徳太子の像ゐり又毘沙丸の守本尊ゐ比叡と云ふ
ひえの毘沙王丸人商人ふ勾引て行道ゐり逃帰て此事ゐ頼朝公ゐ訴ゐ
奏ゐゐり公怒れそ都筋ゐ探して天井ゐ張る黒ゐ手ゐ切ゐ
罰ゐゐりそを此本尊身代ゐりそ當寺ゐ權現まゐ号ゐ淨土宗ふあり本尊
ハ弥陀救ひゐ人ゐり

阿弥陀佛ハ恵心ゐ仏ゐり（ひろい歓喜寺ハ洛中卦疆數の中七条通の南
りへ此古ハ名境内ゐて真言宗ゐり小歓喜寺の森ゐそ旧跡ゐり此ふ西口の堂ゐ堂の口と
旧寺の図當寺ふあり

源為義の嫁ゐ權現堂の前ふ朱雀の六軒町ゐ家ゐ賜ゐ
鎌田兵衛正清ゐ申ゐけてゐ為義ゐ嘉屋御所ゐ朱雀の西通のゐゐあり田邸
ゐ造ゐ所ゐ則權現ゐまの持地ゐり

若の中ふ松尾明神ゐ祀ゐ旅所ゐ西七条ゐりゐ南ゐまねふ及ひ
小社ゐあり

綱敷天神（西七條ゐ側ふあり）

鞍負天神（七社の一ゐ綱數の西ふあり氏宮の東南ゐの道ゐり
大内裏の右京ゐりゐて鞍負通ゐ故ゐゐゐ）

水薬師寺ハ西七條の南ふあり本尊薬師如来（延喜二年ゐ勅ゐゐり）

福徳天社（本堂の南ゐあり）
社の下ふ清泉涌出ゐ平滑盛數の辨慶石（淺ゐ堂のおふあり古ゐ条
ゐゐゐ水ゐ汲んで参せゐゐそ）

門の額（水薬師寺と書ゐ當寺近年の住職泉南の筆ゐり
ハ公卿書ゐ書ゐゐゐ世ゐ墨ゐ明ゐ人年ゐ）



松尾祭礼

川勝寺の西七條の西七町ふあり。所々ふあり。桂川勝龍寺の城ありし頃迄村也。

西まれ田ありし梅小路村也。

今松尾御祭礼神輿渡御所ふあり。

唐橋ハ四ツ塚より西六町ふあり。秀吉公朝鮮出陣の時ハ此街道を通りしと也。

その下流よりの橋なれば唐橋といふ。

吉祥院天満宮ハ唐橋より南ふあり。

天女を安座ふ。傳教大師の作なりと所の旧家の伝へて別社ありし。

家に祖清公卿延暦二十二年遣唐使として異朝ふ渡りし船中ふて乱波の難ふ逢ひしも傳教大師求法の為ふ入唐し則同船して吉祥天女の像を造る。清公卿ハ乱波ふ逢ひし堂舎ふ来て

像を造る。清公卿ハ乱波ふ逢ひし堂舎ふ来て

石原井

多居の橋ふあり。

菅原碑の銘をきゝむ

鳥羽里ハ四ツ塚の南ふあり。

上鳥羽下鳥羽より南ふ半里

家ゐけれ多羽田の面れ秋風ふ

やゝうそ寒き音れ稲妻

後鳥羽院

あやなくも八十ふもあまる塚の名ふ

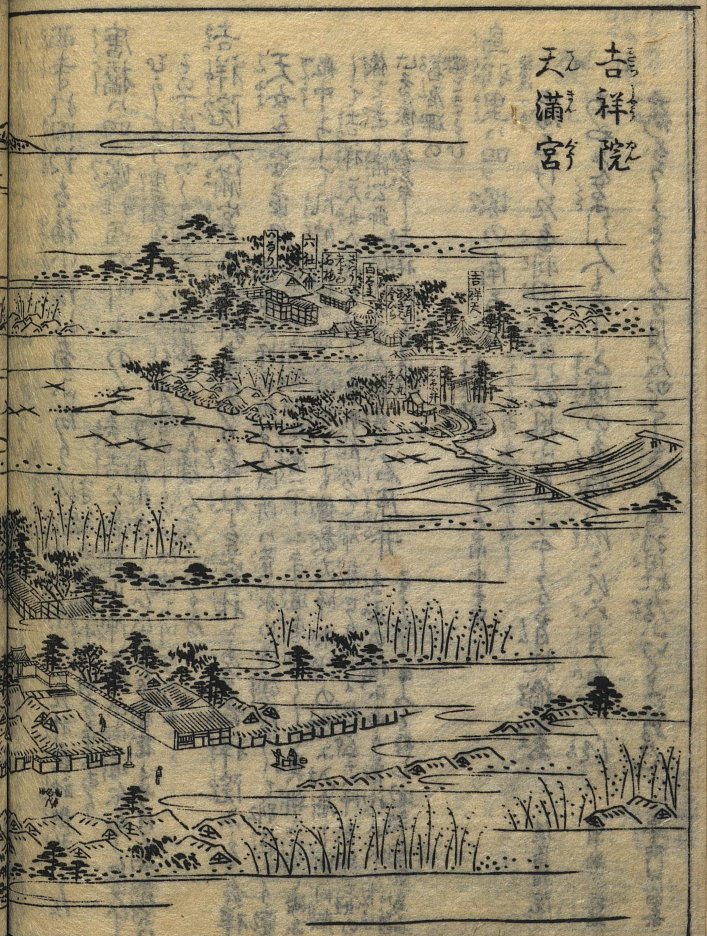
猶小波こえ月日乃

前中納言経継

家ゐるうくそうくる夜ふのこきそ鳥羽田れ

春船門然四条


上鳥羽
實相寺
奥徳谷羽塚
地藏堂
まいつゝ


吉祥院
天滿宮



下鳥羽
憩塚寺



鳥羽の車僦ハ
名物流離宮う
はしくるま附
勅許ありしと
いひ伝へ侍る

衣うつ砧羽田の里れ稲遥いくよになりぬ秋の山もと

新後古　夕日さす秋の山本雲もなくそめ羽田の稲葉かぜさわぐ　等持院　信光

玄塚寺小松殿南八町ばかりにあり堂の南に銘に曰渡辺左衛門尉源渡妻塚あり

製作所前秀玉善尼墓　地誌應二庚子年一建立しかり　天文元甲子年六月九日文安上人開基玄塚根元の

遠藤武者盛遠出家して文安上人渡の妻と忍慕して千束のみをあるふ其言に

頃ひ渡が妻と欺盛遠を斬らんと臭女の採る所となる世のさだめ所なり

法傳寺玄塚の南にあり始め真言宗なりしを本覚国師佛徳安再興

行基の作と傳ふ　本尊の阿弥陀佛は恵心の作と善導大師像法然上人像

門内にあり　洛東智恩院伝蔵園智上人仏寺ふ開居して浄土宗と改む

西山上人の作と伝ふ　弘方便水　内の小さきあり　念仏と唱ふれば井を掘しむりの人仏名あり

二祖影面の像とあり

一念寺　法傳寺の南にあり本尊阿弥陀佛ハ春日仏師の真阿弥陀佛といふ

横大路を下る羽の南小綾くしくりの通りそれぞれ秀吉公の代仏所と

運送とりの舟着うろより鳥羽玄庫尾ヶ濱より後世を

なりしとそ　船頭多し


久世里
藏王堂
琴弾松
拾弐清水
福田寺
琴弾松
拾弐清水

羽東師の處を
久世の里と
南ふして久我
野に遷れ東にあり
その一の社へ
天津兒屋命を
祭る

金葉
家の風
ふくあきの
その一の
杜のこえ葉
をとせぬる

藤原敦頼

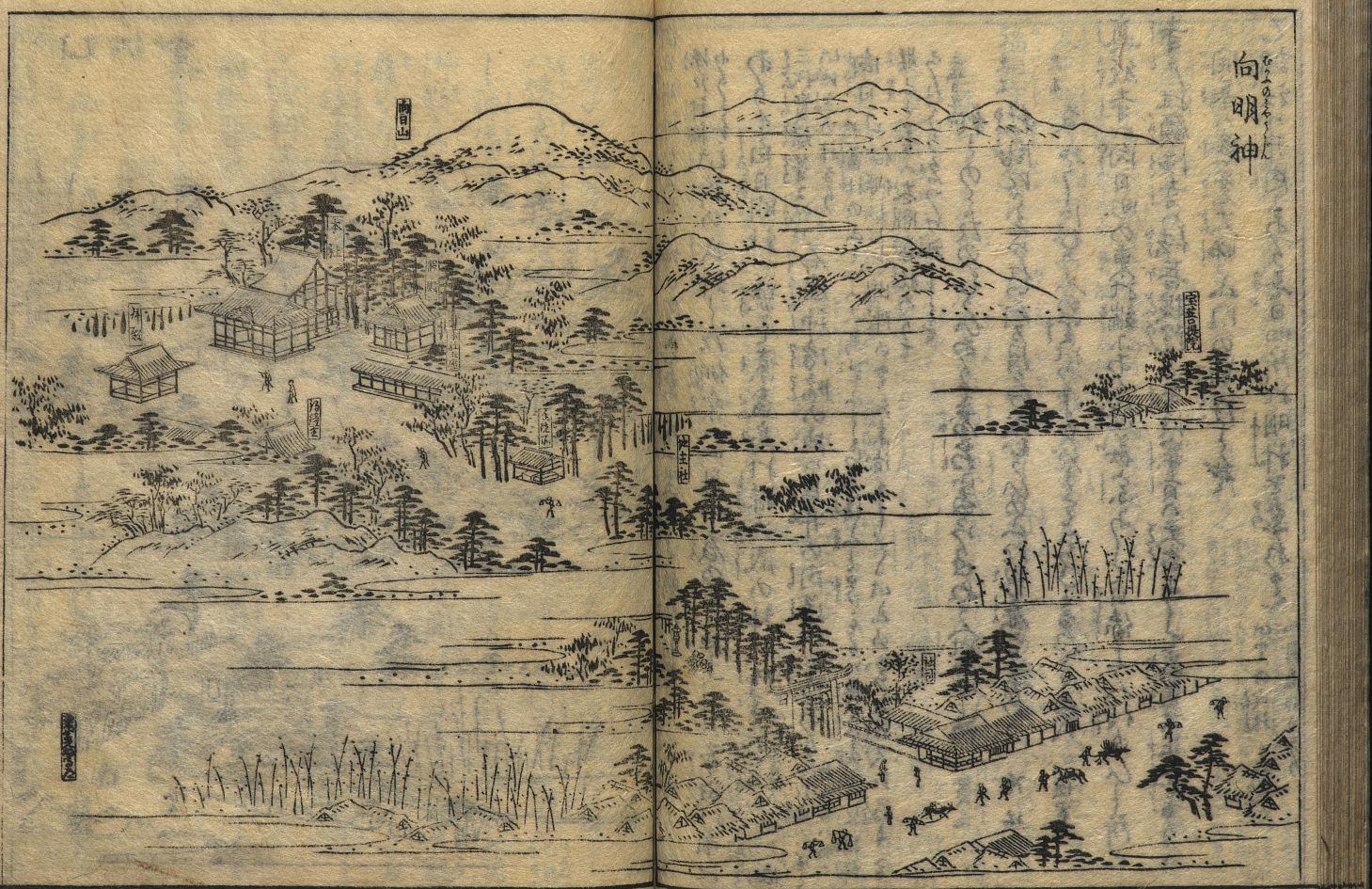


久世郡王堂山光福寺と號し宗旨八四宗兼學あして七堂伽藍
藏王權現（役行者の刻み玉ひしの金剛力士の聖像を安置）
山寺の初め村上帝の御宇天曆年中の草
淨藏貴所（當寺の開基也）
吉野の奥金峯嶽に攀ぢ登り給ひ
給ふ歟と夢ともなく現ともなく藏王權現忽然として
あらはれ給ひ汝常に法華經を讀誦して神妙の至りと
今都ふ海べきも
供をせしかく有難き靈驗を貴所希異に
思ひ給ふ事なかれ
と綠て肩を結び眷に則ち
供奉の法をあたへ忽化して本像
桂川の西なる
山より紙を持ち
錦を流して水さかのぼりその
ほとりに
一の森の
小光明ありてそれが
辨財天の
影像
藏王の神像
石にめりて動ぬ
果を有緣の
地と悟り則ち
持念をこらし
夜西の
天照大神
辨財天
雜財天
醫王善逝と
唱へて
拜を
貴所
行ひ給ひ
藏王權現
地よ
早く
仏國を
遂て
安樂せん
利益廣大

すくんと云終て失ぬ貴所れくの志を感じそう堂を営る係を妄想に當る感応の
後戸社の鎮王堂の南にある牛頭天王ならん
鷲尾寺の中久世の西大菊にある本尊の薬師如来にて往古より尊像
いわくへ巌そくの仏壇あり中に国狭さ乃んて
小堂とうり今曹洞宗の僧住
本下明神いまの西にあり兵賊大をおそれ氏社と祭る四月巳白く
福田寺の下久世にある本尊の地蔵にて行基の作なり摩耶夫人の像と
を納めすて世の人安産の為に梁武帝と作り給ふ赤拇指ある像
弘法大師入唐の時ここに泊て帰朝し播州龍神像の後恵法師両名の作
なり摩耶山天上寺に安置に後に作るみうりを龍神像
修をし霊験あり
板井清水いまの民家にあり むかし福田寺の封境なる
後恵法師ここに庵居を後恵心ある
宇多天皇六代の苗裔後頼のるお智世ふ誉あり(ここに)
通よ達ちうさ(れ)が世の衆い宿因ふく聡慶のころ(ここに)
淵の陰んもちろしい座くぬしの人鎮をこめる地ともにぞ
ちとつうりそのあもうぞうり羊飼てえこれ来てあれるあるをる
縁れいかやう擔端の虫のさそうの小隙のあるうこと空さん考うとをれを
法縁ある用しさんぞありんさいくうれを
古ぞの板井の清水みくあれ用うをるうれを

後恵法師

向日明神 久世の神のくあの所一坐ありて麒麟羽菅不合尊ありう
係る神社ありうそし所の氏神くり例祭八四月中辰の日と地主神八本殿し南に
ありて向日明神と號を素盞烏社孫大歳の神のほうこ
三代實録等え記いう石座神降臨の地い鳥井の内道れ半ばあり
山地主の社ありう
向日山 當社のふもとにあり 鳥ぼふしの絵ふし号ふうの豊た秀吉公 謝鮮
伐として出陣のやうな系統ふしくふ山のやう狼社くにあるを
勝ふしうう名つけ神一そ
古社日況
そのくたのむひありて奇霊あらせめうへしやう 賀之
支末
社風にそれいぐる月の紙むひのふに男衆うあり 隊注
支末
そ社しにむうへの望れうのだくうちくるうこと思へ 俊実
真経寺 向日町の東れ端ふある法華宗みして日係上人行ゆひ所と
寺戸 願法寺八法華授院と号た宗旨八天台みして本尊八正記るう
開基八慈覚大師ふ門の別院一般
乙訓社 井内まあり春日四所れ明神を祭れうこ 山里の氏神ふ系い
四月辰の日うり


向明神
高目山



大慈山乙訓寺

大慈山乙訓寺は西岡今里にあり當寺の本尊は聖徳太子の御彫刻にして聖徳をもて開基なり其後弘仁二年の冬弘法大師別當職に補し八幡宮は本地彌陀の大師自ら像を彫刻して當山の鎮守とし神像はさざみの人皇寛法擁護のために神佛合體の本影なり當寺の本尊定朝の作にして寛平法皇脫履のために行宮とし給ふ故に名づくと云ふ方壇廣大にして伽藍巖雲なり中興南禅寺の伯英和尚の撰し又武内護持院再興ありて真言宗となる

開山井は乙訓寺の東にあり大師灌法修行の時汲給ふと云ふ

今里

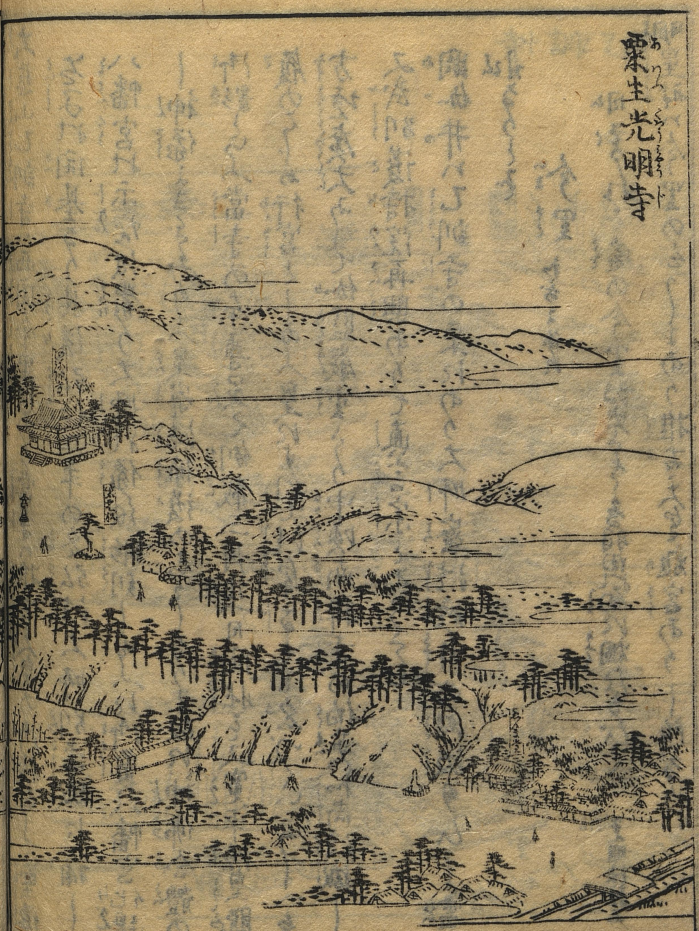
文明法寶之

日ぐれぬ遠の今里松ふかき西岡面に烟なるべく

明皇行幸今里の云々あり推古天皇離宮あり云々所なり

栗生光明寺





報恩山光明寺に粟生野にあり宗旨は浄土宗西山深草の一本寺なり本尊阿弥
大師を坐像にして自作なり　法然上人四國へ左遷の時此尊像を
阿弥陀堂の本尊は恵心僧都の作にて江州堅田浮御堂千體佛の中
尊なり　熊谷蓮生法師往國を願ひて此所にさゝ海の州ありしを
て安置して法然上人の廟蓮生の居は本堂のうしろの山上にあり石搥は
阿弥陀堂の傍にありて方丈には御鉢釋迦佛を安置それ
當寺の草創は法然上人の滅後十七年にあたりて慶山の衆徒念佛
宗の繁昌をそねみ彼派を破して
弾選擇集の板并複製者定照房といふもの惡しき隆寛律師の
に送る隆寛則其答ふ顯選擇集を述べ海の辨案のあらざるを
聞て大に激怒し佛壇の仏像を打ちこわし石搥
を碎き其外上人所持の木像を取そろへて左京東北坊の
送る其翌年安貞二年正月ふいごりて上人の石搥より光明のやう
くだ来迎坊あやしき光のさゝ紙ありしを奉ぐり遠の南のさ
粟生野はやうやく至の則此所に住る安楽の弥陀佛のさゝ木ぞ
て其説紙ありふ幸阿弥も不思議の霊告ありてまに有合まつり上人
の法第を奉ぐりし搥を粟生野にうづみ堅紙にうれい上人の面見れ
存れぬし則當寺の山腰にかのく茶毘を時ふ勿論くして悲き空
ふゑうびん異香四方に薫じ則舎利を拾ひて廟堂を造立浄土
一宗の宗廟ぐうじ業を廣ひし所は松のありてそれ紙業實和ぐるぐく今
勢して當山は往昔の地ありて山林の陰こは宝閣そしへ常行念佛
の聲くこで講堂は一万巻をひろうて真如の月を探る林葉風
風紙ありて黄金を布の紙陀園ともひつゞ


奥海印寺寂照院
楊谷観音堂




長岡天満宮
長岡や
田つくれ
そのあれ
まくに
秋さあいさうな
鴨の羽うち
西園寺
向日村


洛西長岡天滿宮
我宿の
志をぬしならねとや
うぐひす
神輿所
神樂所
能樂所
神庫
神池
神橋
神門
神樂殿
神馬舍
末社
末社
末社

ゝ



小倉のやしろハ圓明寺の里より遠からず十余町西の山林ふかき本殿ハ
正一位小倉大明神例祭ハ四月五日みこしやしろの產ぶすな
毎歳四月二日に精楽あり 京六条異民
圓明寺ハ小倉山の南ふもとにあり本尊ハ藥師如来みて聖徳太子乃
御作なり當寺ハいにしへ堂塔魏々しくして九條殿下光明峯寺道
家公の帥創あり御子圓明寺摂政實經公晩年ふるんで父祖の遺
物故弁ぬらんだ地に山荘を構て閑居しの人遠に山所と於て薨し
もと御墳小倉のやしろの巽ふあり

帰海印寺ハ下嵯野にあり宗旨真言みして本尊ハ千手観音
脇士ハ不動明王弘法大師の作地藏菩薩ハ傳教大師の作なりと
平家の代あれ平兵衛業盛朝丹波少将成常なにふかく帰依あ
らん事ハ故當寺の本尊に祈を逐る感應依ふく赦免の宣旨ハ蒙る具験
成就ゆへ也寺ハ双いとうとし

勝龍寺ハ城ハ神足の東ふあり 畠山右衛門佐義就ふ仏を築信長記ふ曰永禄
十年九月廿九日岩成主税勝龍寺の城ふ攻落る


山嶺
離宮八幡宮
寶寺
觀音寺
八大王王

谷ノ観音



大山崎天王の社の素盞烏の御子八王子を鎮座一の鳥居の額小野道風かきぬ山崎郷中の産神次例祭は四月八日にて神輿三基を當社勧請の年代詳ならず次神殿梁の銘に曰養老二年再興と書しと今就中あり天王山の城ハ文明二年山名是豊赤松一族上洛して此城を築く観音寺ハ天王山の東半腹にあり真言宗にて佛殿の本尊ハ釈迦立像聖徳太子の御祖師堂ハ弘法大師の像を安置ス本堂ハ慶長中興にて今の如く再建あり當寺の客殿より後ハ猫の眼を張り使ふ珍らしき遺寶寺ハ観音寺の南にあり補陀洛山寶積寺といふ真言宗にて本尊ハ十一面観音の立像にて聖武帝行基大士の御作なり堂内の寶頭盧の像も行基の作と傳ふ聖武帝の御時二重ノ塔ハ大日如来と安置ス當寺の什寶にも出ル小袖あり妙喜庵ハ寶寺の麓にあり禅宗にて本尊十一面観音千手觀音所小庵にて二畝ほど囲を建る茶吉ハりく庭にありて茶の湯ありと山崎の橋ハ桓武帝即位二年小屋を造る中須くり淀の橋をうけて絶ず今ハ舟渡しありて桂川の渡しハ大井の人馬往来して今ハ橋なし

離宮八幡宮ハ今府住還の中ほあり鳥井の額ハ行成卿の筆ニ社殿ハ八幡矣を崇奉りて社壇の下ほ石清水涌出ん左右ニ住吉の像あり拝相ほ無ニ〻〻〻佐ニ〻〻〻若宮のやしろ武内ハ本社の傍有ニ〻〻〻當社ハ貞観元年四月十五日行教和尚宇佐宮ほ詣ん八幡ニ〻〻〻ニ倚ほ此時ほ村花ほそ〻ほ尚ほ對ニ〻〻〻去ん七月十五日夜ニ〻〻〻ぬ真猪日輪のめしニ〻〻〻樹の木陰ニ〻〻〻清水ほ〻〻〻ニ〻〻〻ほ異香薫ニ〻〻〻ニ行教ニ〻〻〻天聽ほ達ニ〻〻〻勅ニ奉ニ〻〻〻清水ほ社ニ〻〻〻社殿ニ造宮ニ〻〻〻離宮の名ハ當社鎮座のニ〻〻〻ニ弘仁帝の御宇の御夜消ニ〻〻〻離宮ニ〻〻〻ニ離宮八幡ニ稱ニ〻〻〻天滋宮の社腰ニ〻〻〻ニ〻〻〻所ニ休ニ〻〻〻

大鏡

君のそむ宮ハ猶とりくもゆるにのくらみ〻〻

菅贈太政大臣

宇鑑法師の此居の地ハ天滋宮の傍ニ宗鑑ハ足利義尚ほの侍童ニて俗称ハ志那ほ言範ホとい〻〻連哥ほ能ニ〻〻〻世に噂ん

窓戸明神ハ山城摂津の國堺ニ〻〻〻ニ所に関所あり関ニ院ニ〻〻〻今の町の名ニ〻〻〻谷の紀ニ〻〻〻ハ町の南ほあり

（頭ほ檀金の像ニ要ニ〻〻〻山中ニ彫あり）